

令和8年度東京都立目黒高等学校 学校経営計画

東京都立目黒高等学校長

1. 目指す学校

(1) スクールミッション

「知性豊かな人格形成、個性の伸長、自主・自律の精神育成」を教育目標とし、生きる為の基礎的・基本的な知識や人権感覚及び規範意識を身に付け、将来にわたり学びを継続する態度の育成を通じて、国際社会に貢献する生徒を育成します。

(2) スクールポリシー

① グラデュエーション・ポリシー

基礎・基本を身に付け、主体的に知識を活用する力を育み、高い志を掲げその達成に向けた計画的な努力の継続を惜しまず、論理的思考力・判断力・読解力の定着を図り、何事にも負けない、健康や体力、忍耐力、精神力を育む、人権尊重の精神を併せ持ち、規範意識を身に付け自主的自律的に行動する能力を育成する。

生きる為の基礎・基本となる知識を身に付け、様々な課題に主体的に取り組み解決するための論理的思考力・数学的思考力・読解力を育み、的確な判断ができる力を育成する。また、特別活動等を通して健康や体力、精神力や忍耐力、規範意識や人権尊重の精神を育み、自主的かつ自律的に行動できる生徒を育成する。

② カリキュラム・ポリシー

5教科すべてを余すことなく必要な知識と認識し、基礎基本を身に付けさせ、将来の高い志の達成のために3年間を見通した教科・科目を段階的に深化し学習をする。

全教科で学ぶ内容を生きる為の知識と捉え、理系文系に関わらず全ての教科で基礎・基本の定着を図り、数学力や英語力の向上を目指し大学入学共通テストに対応する。また学校全体で読解力や表現力の向上のための取組を行い、文章力を育成する。

③ アドミッション・ポリシー

本校志望の意志が強く、自らすすんで学習に励み、その学習成果が期待できる。また規則正しい生活を送り、頭髪・身だしなみを整え、ルール・マナーをしっかりと守る心構えがあること。基礎学力を身に付けていて、入学後も続けて学力の向上が期待できる生徒。生徒会活動や部活動、学校行事などに積極的に参加し、努力したと認められる生徒で、これからも学校生活の中でその活動を続けることが期待できる生徒。特に推薦選抜においては、出席状況の良好さとともに、前述の活動で中心的役割を果たしたものが望ましい。

学びに対する意欲を持ち、自分の将来に対する高い志をもち、学習のみならず部活や学校行事等などに積極的に関わり努力を惜しまない生徒。様々なことに対する疑問を持ち、疑問の解決に主体的、積極的に取り組むことができる生徒。規則正しい生活習慣やルールやマナーを守れることは当たり前である。

2. 中長期的目標と方策

(1) 中期的目標：教育の質の向上と進路指導の充実、魅力ある学校づくり

進学指導研究校として、生徒一人一人の希望進路の実現に向けて学年と進路指導部が連携を密にして取り組んだ結果、昨年度に続いて東大現役合格者を1名輩出し、さらには、防衛医科大学校に現役合格者1名を送り出すことができた。国公立大学現役合格者は、2年続けて20名を超えた。今後、安定した進学実績を維持していくために、改めて進路指導体制について見直しを図り、指導体制のより一層の充実に努めるとともに、学習環境の整備や外部人材の活用を推進する。令和8年度についても、国公立大学受験や理数分野の指導に注力する学校の姿勢に変わりはない。

4年連続下降していた入選倍率については、昨年度大きく向上し、目黒高校の従来の人気を取り戻すことができた。総務部を中心に広報活動やPR活動に工夫を重ね、教職員一人一人が粘り強く募集活動に取り組んだ大きな成果である。引き続き募集対策の工夫改善に努め、東京都の事業を積極的に活用して学校の魅力化・特色化を推進し、学校の魅力・特色を広く都民に情報発信していく。

東京都では、現在「新たな教育のスタイル」の確立に向けて様々なプロジェクトを展開している。本校においても、本校ならではの「ハイブリッド型教育」の開発を推し進め、東京都に成果を還元する。デジタルの効果的な活用を通して教育の質の向上を図り、「デジタルとリアルの教育を支える新たな仕組み」の実現に寄与する。

(2) 方策

①学校経営

東京都の以下の事業を活用し、教育の質の向上と進路指導の充実、魅力ある学校づくりを推進する。

- ア 「進学指導等の充実事業」推進校
- イ 理数研究拠点校
- ウ 都立学校における部活動の特別強化プロジェクト 指定部活動：女子バスケットボール部 (Tier1)
- エ 外部検定試験実施校
- オ 東京都N I E実践指定校
- カ デジタルテスト (CBT) の調査研究協力校

②学習指導

- ア 基礎基本の定着、学習習慣の確立、確かな学力の育成
- イ 理数教育の充実 (科学する心や探究心の育成)
- ウ デジタルやICTの活用推進 (ハイブリッド型教育の推進)

③進路指導

- ア キャリア教育の推進
- イ 「自律した学習者」の育成
- ウ 希望進路の実現、進学実績の向上

④生活指導 (部活動、特別活動を含む)

- ア 基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成、社会性の育成

- イ 学校行事の活性化、生徒の主体性を育む学校行事の工夫
- ウ 部活動の充実、地域と連携した取組の推進

3. 今年度の取組目標と方策

テーマ：「進学指導等の充実事業」対象校として、キャリア教育の視点から進路指導体制について見直しを図り、指導体制のより一層の充実に努めるとともに、学習環境の整備や外部人材の活用を推進し、生徒一人一人の希望進路を実現する。

(1) 教育活動の目標と方策

<学習指導>

①学習習慣の確立

- ・英数国を中心に朝テストを実施し学習習慣の定着を図るとともに、CBTの導入を通して個別最適な学びの実現を目指す。
- ・ICT機器を活用した自学自習の課題配信や振り返り、質問対応等を実施し、きめの細かい指導の充実に努める。
- ・スタディサプリ高校講座・ENGLISH等のコンテンツの積極的な利用を促進し、自発的な学習を計画的に指導する。

②授業改善の推進

- ・全ての授業において、アクティブラーニングの視点を取り入れ、対話や発表、知識を活用した活動を充実させるなど、深い学びの実現に向けた工夫を図る。
- ・授業の相互参観や指名制による授業研究、ICTを利用した授業実践に取り組み、効果的な指導法の研究・開発を行う。
- ・生徒による授業評価の結果分析を生かし、各教科で組織的な授業改善に取り組む。

③自学自習の定着

- ・自習室等の環境整備やTAの活用を通して、生徒の自学自習をサポートするとともに、学力の確かな定着を図る。
- ・授業日の放課後に学習講座を設定し、進路希望に応じた学習指導を推進するなど、個に応じた指導の充実に努める。

④言語能力の向上

- ・すべての教育活動において言語活動の充実に努め、思考力・判断力・表現力を偏りなく育成する。
- ・読書活動を推進し、読解力や表現力の向上に努める。

⑤グローバル人材育成の推進

- ・国際交流や留学生の受け入れなどを通して、多様な価値観に触れる機会を創出し、異文化理解を深める。
- ・英語四技能を測定する外部検定試験を活用し、総合的な英語力を育成する。

⑥理数教育の推進

- ・理数への興味・関心を啓発し課題発見と解決方法の模索等の探究活動を推進する。
- ・理数関係の講演会を充実させ、理科・数学・情報関係の理数系を志す生徒の発掘・育成と進学を支援する。

⑦難関大学進学を目指した進学指導の充実

- ・国語・数学・英語の基礎を2年までに固め、3年0学期からの志望校を目指した学習支援を充実させる。
- ・6-8受験を目指し、理数科目を安易に切り捨てることなく、目標達成に必要な学力を育成する。

- ・共通テストを全員受験するとともに、国公立大学や難関大学に向けた 2 次試験対策として、進路希望に応じた指導を充実させる。

⑧総合的な探究の時間の充実

- ・統計やデータサイエンス、生成 AI の活用など、探究の基本的な手法を身に付け、生涯にわたって学び続ける「自律した学習者」を育成する。
- ・探究的な学びをはじめ教育活動全般に対して、教科横断的な取組を推進する。

⑨学習・教育環境の充実

- ・家庭環境の問題や学習の悩みなどをスクールカウンセラーやユースソーシャルワーカー等に相談できる体制の充実を図り、不登校・中途退学の未然防止に努める。
- ・「都立学校発達障害教育推進エリアネットワーク」を活用するなど、特別支援教育コーディネーターへの指導・支援を強化し、発達障害のある生徒の一人一人の特性等を踏まえた教育活動の一層の充実を図る。

<進路指導>

①計画的かつ組織的な進路指導の実施

- ・進路指導部主導で3年間を見通した計画的な模擬試験を実施し、学力の定点観測を行う。
- ・定期的な模試分析会やケース会議、教科主任会議の開催を通して、進路指導部と学年教科担当が主導して進路データを分析し、校内で共有するとともに、外部専門家の助言も得て、組織的な学力向上と希望進路の実現を図る。

②キャリア教育の推進

- ・学部学科説明会、大学模擬授業等の実施を通して、高大連携を推進する。
- ・外部機関・外部人材を積極的に活用し、生徒一人一人に自己の在り方・生き方を見つめさせ、進路目標を早期に設定できるよう支援する。

③長期休業中の講習の充実

- ・部活動や学校行事の準備と、夏季、冬季、春季講習との両立を図り、生徒の受講率向上を図る。
- ・長期休業中の学習計画を効率的に立てられるよう、早期に講座数、講座内容、実施日程等を生徒に周知する。

<生活指導>

①生活指導の徹底

- ・基本的な生活習慣を定着させ、社会生活における規範意識を高め、学習に集中できる環境づくりに努める。
- ・いじめに関するアンケートを年間3回実施するとともに、いじめ総合対策に基づく校内研修を実施し、いじめ未然防止を図る校内体制を構築する。
- ・定期的な校内研修を通して、体罰や不適切な指導に対する意識啓発を図るとともに、SC の活用や外部相談窓口の紹介等、相談しやすい環境を整備する。
- ・いじめや自死の抑止に向け、生徒がSOSを発信しやすい学校づくりやSNS東京ルール周知徹底の取組を強化する。

②学校行事の活性化

- ・行事の主体を生徒会や実行委員会に委嘱し、教員見守りの下、生徒に企画・運営を担わせ、自主・自律の精神と豊かな人

間性を育む。

- ・生徒会、実行委員会の活性化を図り、生徒自らリーダーシップを発揮し、行事の在り方や方向性を検討してルールづくりができるよう支援する。

③防災教育の活性化

- ・防災に関する知識を深め、自らの命を守る力を身に付けさせ、自助を確立させる。
- ・地域と連携した防災教育や避難訓練を実施し、地域に貢献できる共助の精神を学ぶとともに、避難行動支援に関する取組の啓発を図る。

④健康の増進・体力の向上

- ・保健体育、体育行事、運動部活動等を活用し、生徒の健康増進・体力向上を図る。

⑤環境美化の推進

- ・快適な学習環境の整備・維持に努め、生徒による主体的な美化活動の充実を図る。
- ・地域貢献活動を通して、奉仕の精神を育み、環境問題に関する意識を高める。

<広報活動>

①募集対策の工夫・改善

- ・学校説明会や学校見学会等の募集活動において、総務部と生徒会で連携し、本校の特色や強みをわかりやすく丁寧にアピールする。
- ・小学校や中学校における出前授業や体験学習の機会を利用して積極的に広報活動を展開する。

②HPの充実

- ・生徒の活動、学校の様子等を適時HPに掲載する。中学生や保護者に本校の特色・魅力を随時発信する。

③地域連携の推進

- ・「人間と社会」の体験活動において、地域との連携を推進する。
- ・年間を通して公開講座や施設開放を継続して行い、開かれた学校作りを推進する。

<組織>

①組織マネジメントの推進

- ・働き方改革の一環として、「費用対効果」及び「時間対効果」を意識し、ICTを効果的に活用して業務の効率化を図る。
- ・明確な目的や目標を設定し共有するとともに、円滑な意思疎通を図り協働的な組織文化を醸成する。
- ・自己点検や研修を定期的に行い、サービス事故の根絶とコンプライアンス推進のための意識強化を図る。
- ・教科会を定期的開催し、学習の進行管理を適正に行う。
- ・エビデンスに基づく教育課程の編成、実施、評価、改善を通して、授業改善や教育活動の質の向上を図る。
- ・主幹会議、企画調整会議、教科主任会議の連携を強化する。事前の意見調整や率直な意見交換を日常から推進する。

②経営企画室の機能強化

- ・効率的な予算編成と執行を継続する。
- ・学校徴収金の適正な執行を管理する。
- ・施設設備の維持・更新を計画的に行う。
- ・計画的に改修工事(武道場)を申請し、施設設備の適切な管理を行う。

・適正な契約業務を行う。

・確実な情報管理を行う。

(2) 重点目標と数値目標

重点目標	具体的な数値目標
学力向上に向けた取組	① 長期休業中の講習講座数 80 講座 (R07 75 講座、R06 65 講座、R05 81 講座) ② 英語検定2級 160 名 (R07 162 名、R06 162 名、R05 151 名)
進学指導研究校としての進学実績	① 国公立大学現役合格者数 20 名 (R07 25 名、R06 28 名、R05 14 名) ② 早慶上理 ICU 大学現役合格者数 40 名 (R07 46 名、R06 44 名、R05 25 名) ③ GMARCH 大学現役合格者数 170 名 (R07 170 名、R06 191 名、R05 164 名) ④ 大学入学共通テスト受験者数割合 97% (R07 97%、R06 96%、R05 97%)
広報活動・募集対策	① 応募倍率 (推薦選抜) 2.7 倍 (R07 2.90 倍、R06 2.13 倍、R05 3.25 倍) ② 受検倍率 (学力選抜) 1.7 倍 (R07 1.71 倍、R06 1.16 倍、R05 1.61 倍) ③ 学校見学会参加者数 900 組 (R07 896 組、R06 838 組、R05 965 組) ④ 学校説明会参加者数 700 組 (R07 612 組、R06 772 組、R05 798 組)
「TOKYO スマート・スクール・プロジェクト」および「東京型教育モデル」の実現	① 授業満足度 85.0% (R07 83.7%、R06 86.0%、R05 85.7%) ② ICT 活用や授業の工夫 85.0% (R07 82.7%、R06 81.3%、R05 74.9%)